



平成小だより

No. 5



令和8年9月1日 台東区立平成小学校 校長 村上 桂一郎
平成小学校ホームページ <https://www.taito.ed.jp/1310213>

「当たり前」を見つめ直す

校長 村上 桂一郎

暦の上では秋とはいえ、厳しい残暑が続いています。体調管理の難しい時期ではありますが、暑さに負けず元気いっぱいに登校してくる子どもたちの姿に、教職員一同大変嬉しく思っております。

さて、9月1日は「防災の日」、そして9月5日までは「防災週間」です。この夏もまた、私たちは自然の脅威と不確実さを思い知らされることになりました。7月の熊本地震、8月の千葉県を中心とした集中豪雨等、連日の報道で目にした建物等の倒壊や浸水、避難所の様子は、私たちに命を守るための学びや日頃の備えの大切さを再認識させるものでした。

私たちは災害を前にしたとき、「なぜ今、このようなことが起きるのか」、「なぜ私たちがこんな目に遭うのか」という不条理を感じます。一方で、歴史上の先人たちは、私たちが普段感じている「明日も今日と同じ安全な一日が来る」という感覚に絶対的な保証はなく、実に奇跡的なバランスの上に成り立っている「仮の姿」に過ぎないと指摘します。自然は決して人間の都合や予測通りには動いてくれません。しかし、だからこそ「不条理な災害を前にして、人間はいかに生きるべきか」という問いが生まれます。この夏、被災された方々やボランティアの皆さんが声を掛け合い、自らも大変な状況にあるにも関わらず互いを思いやり、助け合う姿から、人々の強い絆を感じました。

フランスを代表する小説家・哲学者のアルベール・カミュは、その著書の中で過酷な苦難に立ち向かう人々の絆を描き、「人間に誇れるものは、偉大な業績ではなく、ただ互いに助け合う誠実さである」といった趣旨の言葉を残しています。

災害は、私たちが「当たり前」として享受している日常の有り難さを浮き彫りにします。朝起きて学校へ行くこと、友達と遊び、共に笑うこと、家族と一緒に食事をとること等、これらは決して「当たり前」ではなく、非常に尊い「奇跡の連続」の上に成り立っています。

本校では、防災の日に合わせて、一斉下校避難訓練を実施します。避難経路の確認や集団下校という「技術的な備え」に加え、「自分の命と他者の命の尊さに気付き、今ある日常を大切に生きる」という「心の備え」を深める機会にしたいと考えております。

しばらくはこの残暑と付き合う日々が続きますが、子どもたちの健康面・安全面に最大限留意しながら教育活動を進めてまいります。ご家庭におかれましても、非常時の約束事や避難用品の点検とともに、ぜひ「当たり前」の日常の尊さについてご家族で語り合ってみてください。今月も保護者・地域の皆様と連携し、子どもたちの安全で豊かな学びを支えてまいります。

<9月の目標>

【生活】正しい言葉づかいをしましょう

【安全】(交通)飛び出しをなくしましょう (安全)避難の仕方を確かめましょう

【保健】けがに気を付けて楽しく運動しましょう

【給食】楽しい食事の場をつくりましょう